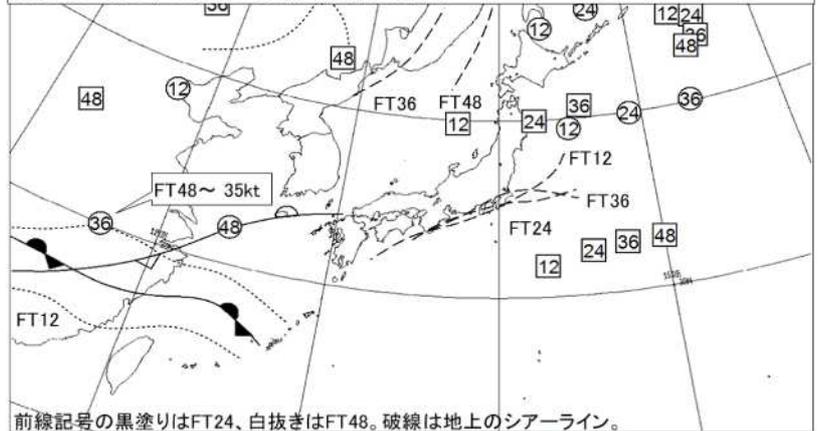


1. 実況上の着目点

- ① 500hPa 5700m付近の強風軸に対応する前線が華南から東シナ海へのびている。前線に向かう下層暖湿気の影響で先島諸島で、非常に激しい雨を解析。
- ② 500hPa 5400m付近で-33℃以下の寒気を伴うトラフに対応する北海道付近の低気圧が、ゆっくり北東進。
- ③ 日本海の高気圧が東へ移動。日本の南の高気圧が東へ移動。これらの高気圧の間で、関東の東海上から本州南岸付近にかけてシアーラインを形成。近傍で激しい雨を解析し、発雷を多数検知。

沖縄地方では29日は、河川の増水や氾濫に警戒し、土砂災害、低い土地の浸水に注意・警戒。九州では30日は、大雨に注意・警戒。全国的に30日にかけて、落雷、突風、降ひょうに注意し、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。九州では30日は、強風、高波に注意。西～東日本では31日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷、突風、降ひょうに注意。北～東日本では31日は、強風、高波に注意。



前線記号の黒塗りはFT24、白抜きはFT48。破線は地上のシアーライン。

主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 500hPa 5700m付近のトラフの深まりに対応し、長江下流付近では、30日朝までに1項①の東シナ海へのびる前線上に低気圧が発生する。低気圧は30日夜までに東シナ海へ進み、前線は九州付近までのびる。1項②の低気圧は北海道を通過後、30日朝までに不明瞭化する。1項③の日本の南の高気圧は30日夜にかけて日本の東へ移動。1項③の日本海の高気圧は30日朝にかけて三陸沖へ移動し、その後、不明瞭化する。高気圧の不明瞭化に伴い、シアーラインも不明瞭化する。29日は北～東日本を500hPa -21℃以下の寒気を伴う温度トラフが通過する。東シナ海へ進む前線や低気圧へ向かう下層暖湿気、地上の昇温、日本の南の高気圧の縁辺からシアーラインに向かう下層暖湿気、上空の寒気の影響で、大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴う非常に激しい雨の降る所がある。沖縄地方では29日は、河川の増水や氾濫に警戒し、土砂災害、低い土地の浸水に注意・警戒。九州では30日は、大雨に注意・警戒。全国的に30日にかけて、落雷、突風、降ひょうに注意し、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。低気圧の影響で強い風が吹き、波が高くなる所がある。九州では30日は、強風、高波に注意。
- ② 31日は、2項①の東シナ海の低気圧と前線は西日本を通り東日本へ進むが、南西諸島付近では前線が、ほとんど停滞する。500hPa 5340m以下で-33℃以下の寒気を伴う寒冷渦対応の間宮海峡付近の低気圧がオホーツク海へ東進し、低気圧付近からのびる気圧の谷が北海道地方を通過する。前線や低気圧に向かう下層暖湿気の影響で大気の状態が不安定となり、雷を伴う激しい雨の降る所がある。低気圧の影響で、非常に強い風が吹き、しける所がある。西～東日本では31日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷、突風、降ひょうに注意。北海道地方でも31日は落雷等に留意。北～東日本では31日は、強風、高波に注意。警報級の高波、強風となる可能性にも留意。北～東日本の多雪地では30日にかけて、なだれ、融雪に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。2項①の東シナ海へ進む前線と低気圧の位置や勢力の予想には不確実性があることに留意。

4. 防災関連事項 [量的予報等] ① 雨量(06時からの24時間)：沖縄100mm。

② 波浪(明日まで)：高い所(3m以上)はない。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。